

会議名	平成28年度 第2回スポーツによるまちづくり推進委員会
開催日時	平成29年3月29日(水) 18時30分から20時00分
場 所	市役所3階 第二委員会室
出席委員 (13名)	平中 政明、佐藤 俊子、重永 澄恵、岩間 英昭、高橋 睦美、 溝部 洋司、平田 武、藤川 剛、宮川 力雄、千々松 正俊、 瀬口 康道、銭谷 辰典、塩田 賢二
欠席委員 (3名)	野村 一也、水田 三代春、原井 敬太
傍聴者	なし
担当課及び 出席者	文化・スポーツ振興部：姫井部長 スポーツ振興課：川崎課長、熊野主任 文化・スポーツ政策室：舩林室長、隈田主事
会議次第	1. 辞令交付 2. 文化・スポーツ振興部長あいさつ 3. 自己紹介 4. 議事 (1) 副委員長の選出について (2) スポーツによるまちづくりの取組みについて (3) オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致について 5. その他
委員長 事務局	1. 辞令交付 2. 文化・スポーツ振興部長あいさつ 3. 自己紹介 委員及び事務局員の自己紹介。 4. 議事 (1) 副委員長の選出について 山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進委員会設置要綱第4 条に基づき、平中委員を副委員長として選出。 (2) スポーツによるまちづくりの取組状況について、事務局から 説明。
委員	体育施設維持整備事業の平成28年度と平成29年度の予算額は。

事務局	<p>体育施設維持整備事業の修繕費は平成28・29年度ともに200万円ほどの経常の予算がある。また、平成28年度の大規模な事業予算としては、スポーツ交流施設整備事業の約1億1,600万円、武道館屋根の修繕の約2,000万円がある。</p>
委員	<p>総合型地域スポーツクラブ拡充推進事業について、これからどのように推進していくのか、また未設置校区での説明会とはどこか。</p>
事務局	<p>本山校区と厚陽校区で説明会を行った。全国的にはすげえちや高泊や出会いちょうクラブのように小学校区での設立が多い。小学校区での設立を目指して推進していく。</p>
委員	<p>本山校区と厚陽校区以外の校区については、設立を検討していないのか。</p>
事務局	<p>本山校区については、総合型地域スポーツクラブに欠かせないクラブマネジャーの資格を取られた方がおり、過去に設立に向けた動きがあったため説明に伺った。厚陽校区については、クラブに欠かせない活動拠点があること、校区内にスポーツ推進委員がいること等から説明に伺った。事務局は本山校区と厚陽校区のみをクラブ設立の校区として考えているわけではなく、他の校区についても拡大したいと考えている。</p>
委員	<p>数年前、総合型地域スポーツクラブを立ち上げようという話があり、市のスポーツ担当に話に行った。サッカーをメインに考えていたようで、クラブ設立につながらなかった経緯があったが、現在はそうではないということか。</p>
事務局	<p>市はサッカーだけではなく、地域のニーズに応じた、いつでもどこでも誰とでも取組めるようなスポーツの環境を整備して、市民に心も体も元気になってほしいという願いをもって、設立に向けて取組んでいる。</p>
委員	<p>総合型地域スポーツクラブの維持には、会費が必要ということを了承してもらうことと人のつながりが重要である。また、クラブの運</p>

事務局	<p>営にはお世話をする人が必要であり、その活動拠点も必要である。設立までに課題はあるが、クラブの中で幅広い年代の方が様々なスポーツに取り組むことができるので、他の校区にも広めていきたい。</p> <p>(3) オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致についての取組状況を事務局から説明。</p> <p>海外のオリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致をしていく中で、委員からもご意見をいただきながら推進していきたい。キャンプ地誘致に関しては、パラサイクリングが最も有力であり、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に向けて、今後ともこの会議でご意見を伺いたいと思っている。</p>
委員	<p>本市でできるかわからないが、北九州市が力を入れている車椅子バスケットも良いと思う。本市は交通の便も良いため、しっかりとした体育施設があれば車椅子バスケットのキャンプ地誘致もできると思う。</p>
委員	<p>最近の話だが、山口市のプールがスペインのキャンプ地となった。本市は交通のアクセスも良いので、早め早めにキャンプ地誘致に向けて取組んでほしい。</p>
委員	<p>受け入れる側の施設は、キャンプ地の基準をクリアするための覚悟はあるのか。</p>
事務局	<p>競技団体からキャンプ地としての基準は示されている。誘致の可能性のある競技については基準を確認して取組んでいく。基準に該当していない施設については、整備が可能かどうかを検討する必要がある。キャンプに来る選手団側から了承がいただければ基準に届かなくてもキャンプ地誘致が可能であるとも考えている。</p>
委員	<p>このキャンプ地誘致事業は、数年に一度しかないチャンスであり、他の自治体との競争にもなる。競技施設の問題もあるが、他にもその土地の食の問題、おもてなしの問題等もあると思う。今後、この会議でキャンプ地誘致について話し合っていくのであれば、市の観光課にも会議に来ていただくべきではないかと思っている。2020年に向けてキャンプ地誘致を成功させるためにも、早めに早め</p>

	にキャンプを受け入れる体制を作り、全庁的に取組んでいただきたい。
事務局	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けては、文化・スポーツ政策室が窓口となる。我々スポーツの部署がリードしながら、全庁的に取組んでいきたい。
委員長	体制については、庁内13部署からなるスポーツ振興の連携会議を昨年から行なっている。観光課や市民生活課なども入っており、体制を強化している。
事務局	要綱の第7条に、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができるとの規定もあるので、必要時に観光課など関係部署を呼びたいと考えている。
委員	パラサイクリングの合宿について、市の財政面からも山陽オートレース場の施設改修等は難しいが、サポートできることはほかにもあるので、キャンプ地誘致に向けて頑張って取組んでほしい。
事務局	日本パラサイクリング連盟とも関係を築けているので連携を図りながら、キャンプ地誘致にしっかり取組んでいく。
委員	大人も気軽にスポーツができるような環境を整えてほしい。施設が市内にあっても知る術がないので、わかりやすいものがほしい。
事務局	市の体育施設の情報をわかりやすくまとめたものを作成して、周知していきたい。
	5. その他 年に二回程度、会議の開催予定である。